

基本情報

施設名	わおわお仲町台保育園
所在地	横浜市都筑区仲町台 5-6-11
電話番号	045-941-8033
評価年度	平成 29 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 29 年 11 月 16 日～ 平成 30 年 1 月 23 日	職員一人ひとりが自己評価し、クラス毎に 1 つひとつ確認した。その後は、園長、主任、クラスリーダーが主になりまとめた。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 30 年 2 月 19 日 平成 30 年 2 月 20 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行った。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施した。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 29 年 12 月 4 日～ 平成 30 年 1 月 22 日	各家庭数で配付、第三者評価の目的と流れを書面にて説明した。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 30 年 2 月 19 日 平成 30 年 2 月 20 日	0 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめた。

第三者評価結果報告書

《総括》	
対象事業所名	わおわお仲町台保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人わおわお福祉会
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 5-6-11
設立年月日	平成26年4月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

総合評価

●わおわお仲町台保育園の立地・概要

●わおわお仲町台保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン仲町台駅から徒歩で4分程度の駅前エリアの中にあります。港北ニュータウンの仲町台駅付近は、元は丘陵地帯でしたが横浜市営地下鉄ブルーラインの開通により、次駅のセンター南には都筑区役所を中心とする官庁街として活性し、そしてセンター北駅はショッピングモールを中心とした商業地域として発展しており、合わせて仲町台は落ち着いた閑静な住宅地として公園や緑が多い自然都市宣言をしている地域です。また、仲町台はファミリー層が多く、都筑区役所を中心に横浜の北の副都心として発展の著しい地域です。近隣には小川が流れる「せせらぎ公園」や、弥生文化に触れることができる「大塚・歳勝土遺跡公園」、貴重な歴史の公園の「茅ヶ崎城址公園」、「茅ヶ崎貝塚」、新栄高校等が点在し、新規開拓地域に伴い数々の遊歩道が整備され、自然豊かな公園・緑が多く、のびのびとした景色と調和した、ゆとりある街並みが広がる環境の地域です。

●わおわお仲町台保育園は、社会福祉法人わおわお福祉会（以下、法人という）の経営であり、横浜市に6園、川崎市に1園の認証保育園を運営し、関連のワオジャパン株式会社では学童保育を横浜市、川崎市に11拠点展開し、2017年にも2拠点開設しています。わおわお仲町台保育園は平成26年4月1日に設立され、現在、在籍児童109名（定員100名）の保育を実施しています。園舎は2階建てで屋上園庭を有し、1階玄関を入ると事務室、0歳児保育室、1歳児保育室があり、2階には4つのコーナーにそれぞれ2歳～5歳児の各保育室が配置されています。園内は独自の設計を凝らしたクライミングコーナーやヒノキを使用した大型遊具等を採用し、子どもたちが楽しく、快適に過ごせる工夫が施されています。園では、法人の基本理念である「ほめて」、「みとめて」、「はげまして」に沿い、職員一人一人が心を込めて保育に当たっています。

●わおわお仲町台保育園の保育の方針

わおわお仲町台保育園の保育目標は、1. 「豊かな人間的ふれあいを通じて“人と人との信頼”の価値と尊さを身につけます。」、2. 「子どもの社会性を培い、人間性を育むうえで“正しい習慣”を身につけます。」、3. 「面白いね！ふしぎだね！すごいね！という体験を豊富に積み重

ね“創造性の芽生えとやる気”を育てます。」、4.「“もし・かず・ことばへの興味や関心”を育てます。」、5.「人と人とのつながりを大切に“元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども”を育てます。」、6.「やさしい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ、豊かな心を育てます。」、7.「命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心を育てます。」をめざし、全職員で共通認識を図り、保育を展開しています。また、園独自の「知育」、「体育」、「絵画」の他、ネイティブスピーカーの先生による「英会話」、音楽を使った「リズム遊び」や「食育」教育等、幅広い独自カリキュラムを加えながら子ども中心の保育を展開しています。

《優れている点》

1. 【ガウディア保育理論に沿った保育】

わおわお仲町台保育園では、「ガウディア保育理論」に沿った保育を実践しています。ガウディア保育理論とは、社会が変化し、初めて直面する状況が常に発生している現在、過去の知識や、決められたことを正確に早く処理する能力だけでは初めて直面する状況には役に立ちません。初めて出会う問題に対し、何をすればよいか理解し、いかに解決するかという能力であり、必要以上に教え込むことは、子どもが自分で考える機会を奪ってしまうことを鑑み、子どもの様子を観察し、その子に適切なヒントをあげたり、よく読み・考えてみるようになる問いかけをすることで、自分で“気づく”手助けをするのがガウディア保育理論です。子どもが本来持つ「学ぶ喜び」を引き出すことで、子ども自身で学ぶ姿勢が育ち、学習意欲が高まります。これに沿って、7つのカテゴリー「言語」、「流暢」、「数」、「空間」、「知覚」、「推理」、「連想記憶」のカリキュラムを構築し、子ども自身で体験できる、考える学習を実践しています。

2. 【6つの特徴ある活動の展開】

わおわお仲町台保育園の保育の特徴に6つが挙げられます。それは、「知育」、「体育」、「英会話」、「絵画」、「食育」、「リズム遊び」、です。「知育」についてはカウディアの保育理論を展開し、「体育」では体育指導者検定有資格者から指導を受け、「英会話」は外部のネイティブな講師が歌と遊びを通して体を動かしながら、英語のリズムや発音で話し、英語への興味・関心を育てています。「絵画」については研究発表会を6年間継続し、子どもたちが様々な画材や素材に触れることで観察力、創造力、表現力を養っています。「食育」活動では野菜等の栽培から調理体験を行い、「食を営む力」の基礎を身につけています。「リズム遊び」は音楽を使って、身体的、感覚的、知的に優れた子どもの育成を目指しています。これら6つの取り組みは、法人系列園全てで展開している特徴的な項目です。

3. 【健康な心と体を作る食育】

わおわお仲町台保育園では特に、食育に力を入れて取り組み、野菜等の栽培や調理へのかかわりから「食を営む力」の基礎を身につけるよう工夫しています。栽培や調理を通して生命の尊さと思議を学び、「食を営む力」の根幹を養っています。具体的には、毎月1回の食育（調理）活動を実施し、近隣の農家と提携し、さつま芋ほりや、ジャガイモ、野菜、えび豆等の栽培を土に触れながら体験する機会を設けています。園の周辺は自然も多く残り、畑もあるので食育には適した環境を存分に生かしています。食事内容では、4月から「和食」に着目し、献立に取り入れるよう工夫しています。比較的近くに法人系列園が7園あり、各園の栄養士で検討する機会を設け、各園の栄養士は研鑽を図りながらより良い献立作りに努めています。また、年2回程度はバイキングを実施し、子どもが好きな食事を楽しくみんなで摂る機会も提供しています。保育園の時代はいろいろな知識を吸収すると共に、基礎体力を付ける期間であることを踏まえ、わおわお仲町台保育園では食育により健康な「心と体」作りに努めています。

《さらなる期待がされる点》

1. 【さらなる職員の資質向上】

法人の理念とする、子どもが遊び、育ち、成長することができる環境、子どもを育成する保育理論、外部講師の活用と保育の環境、マニュアル、ツール共に整備されています。加えて、保育士の力量による面は保育におよぶ影響も大きいと考えます。園の展開、拡大に合わせて、中堅職員が巣立って行き、新しい職員が配置されていく環境を踏まえ、そのような期間は一時的であっても保育士の力量が問われることを踏まえ、ボトムアップが不可欠に思います。今後さらに、ガウディア保育理論を保育士にも活用し、初めて出会う問題に対して瞬時の理解・判断力、解決力の体験を積み重ねる機会を持ち、事象に対して職員個人で考える習慣が養われることにより園全体の「力量」にもつながると思います。一層の研鑽を期待いたしております。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

わおわお仲町台保育園	
評価年度	29 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重 領域Ⅱ サービスの実施内容 領域Ⅲ 地域支援機能 領域Ⅳ 開かれた運営 領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上 領域Ⅵ 経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●理念等は、玄関の掲示板上に提示し、入園後の案内、パンフレットにも掲載して保護者に周知しています。職員に対しては、入社前研修や入社後研修に説明し、「職員マニュアル」に掲載して全職員（パートも含む）に配付しています。また、マニュアルを用いて園内研修を実施し、全職員で共通理解を図っています。法人理念の「ほめて」・「みとめて」・「はげまして」のスリーワードは法人創設以来のものであり、子育てのノウハウとして保護者にも子どもが認められ、褒められたら嬉しく伸びていくことを伝えていきます。 ●保育課程は、基本的には法人系列全園共通とし、地域性等を各園で加味して作成しています。在園児の保護者には保育課程を配付して周知を図っています。保育課程は、発達の連続性を留意し、年度末の全体会議等で振り返りと確認を行い、全職員から出た意見を吸い上げ、五領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）について次年度の計画に反映させています。園では6年間の切れのない保育を目指しており、幼児会議）、リーダー会議、職員会議で情報を共有化して進めています。 ●基本理念、保育目標を基盤とした保育課程に基づき、年間指導計画は園長、主任が参加するクラス会議を行い、全体の会議で策定し、月案、週案、日案につなげ、見直しを図っています。計画作成の段階で、子どもの意向を話ができる子どもからは直接聞き、理解ができない子どもについては気持ちや行動等からくみ取り、計画に取り込むようにしています。また、子どもの興味に合

	<p>わせ、予定していた計画を変更する等、子どもの主体性を発揮できるように推進しています。週案のねらいは「帰りの会」等で振り返りを行っています。</p>
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●入園前に新入園時説明会を行い、親子で参加してもらい、説明会後に保護者との面談を実施し、説明会の間に子どもの遊ぶ様子等を観察し、参考にしています。個別面談では事前に入園までの生活状況を記入した書類を提出してもらい、それを基に面接を行い、担任も面接に同席しています。得た情報は職員間で共有化を図り、保育に生かしています。児童票等、他の個人情報書類（入園までの生活状況を補完した書類、児童原簿、児童健康台帳等）は入園までに提出してもらっています。 ●新入児受け入れに際しては、短縮保育（慣らし保育）を実施し、入園のご案内に基準（0歳～2歳児は5日程度、3歳児以上は3日程度）を示し、子どもの状況や保護者の就労状況に合わせて柔軟に対応し、保護者、子どもの不安軽減につなげています。在園児に対しては、進級時に引き継ぎ会議を行い、好きな遊びを取り入れる等、安心して過ごせるよう考慮し、乳児では、担当保育士を持ち上がりにするようにしています。1歳児は、進級クラスと新入園児としばらく分けて保育するようにしています。また、在園児への対応が手薄にならないよう朝夕の用務担当としてシルバーさんの活用も行っています。 ●指導計画は、保護者会（全体会議）、保護者会役員会で寄せられた意向や希望等、また、個人面談や日々の会話を通して意見を抽出し、園の保育方針と家庭の子育て方針を考慮しながら指導計画を作成しています。クラスの指導計画は、全担任で保育課程を元に計画を作成し、前月の振り返りと反省を行い、次月の計画に生かしています。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設環境について、保育室、トイレ等は清掃チェック表を活用して園舎内外共に常に清潔に保っています。保育室内は、通風・換気に配慮し、各保育室に加湿空気清浄機を設置し、冷暖房・床暖房等を設備し、快適に過ごせるよう配慮しています。温湿度計も設置し、計測・管理を行い、日誌に記録を残しています。保育室は全室、採光も良く明るい部屋作りとなっており、玄関等には季節ごとの装飾を施し、クライミングコーナーやヒノキを使用した大型遊具等を設置し、子どもたちが楽しく感性を育めるよう環境作りをしています。


	<ul style="list-style-type: none"> ●沐浴設備は、0歳児室に隣接して備え、温水シャワーは各階に設備し、子どもの体の清潔を保持しています。幼児はプールの後などにシャワーを活用して身体を清潔に保ち、使用後は、清掃・消毒を行い、衛生管理を行っています。 ●保育室は、低年齢児に限らず柵、整理箱等でコーナーを設置し、小集団保育が行えるよう工夫しています。寝食のスペース確保については構造面を考慮し、食後は必ず清掃し、遊び、寝食が混在しないよう動線を考慮し、衛生面にも配慮しています。
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●0歳～2歳児は個別指導計画を策定し、クラス会議や乳・幼児クラス会議を行い、保育で気づいた点などを話し合い、見直しと改善を行い、3歳児以上のクラスでの特別に配慮が必要な子どもも個別指導計画を作成し、保育に生かしています。特別に配慮が必要な子どもについては、全体のカリキュラム会議で確認を行い、対応の評価をし合い、保育の質を高めるよう努めています。 ●子どもの個別の状況、家庭の個別状況等の記録は、所定の書式（児童票、成長発達記録等）に記録し、特記事項を一覧表にして職員会議で共有を図り、記録内容、個別ファイルは施錠付き書庫に保管し、管理しています。進級時には、重要申し送り事項が記録された個別ファイルを基に、次年度の担当職員に引き継ぎ、継続して引き継ぎノートに記録し、新年度の子ども・保護者への対応に生かしています。保育所児童保育要録は作成し、就学先の小学校に送付しています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●特に配慮が必要な子どもについては、配慮点やかかわり方について全職員で話し合い、共通認識を図っています。また、都筑区の保健センターや横浜市北部地域療育センターと連携し、定期的な訪問により助言、指導を受けています。また、定期的に保護者と面談を実施しながら情報を共有し、意見や要望を聞いています。担当保育士は、障害児の研修に参加するよう努め、得た情報は保育に生かすようにし、研修報告や会議議事録等は全職員で共有を図り、対応に生かしています。 ●障害児保育のための環境整備では、園内にエレベーターを設置し、多機能トイレも備え、室内はバリアフリーとして環境を整備しています。指導計画では、子どもの障害に沿った個別指導計画や補助簿を策定し、関係機関と連携を図り、助言等が得られる体制を整えています。子どもが素直に受け入れる姿を大人が範となり、ノーマライゼーションを大切にされた保育に取り組んでいます。

	<p>す。</p> <p>●虐待の対応については、「職員マニュアル」(3-29, 30)に記載し、虐待の定義については研修を実施して早期発見、早期解決の認識を図り、職員は理解しています。早期発見では、全身の健康状態のチェック(着脱時等)を行い、子どもの態度、言動に留意し、虐待の未然防止に努めています。保護者には、虐待ホットラインや相談窓口を掲示し、自ら相談できることを知らせています。また、保護者の生活環境の変化に留意し、関係機関と連携を図り、関係先の電話番号は短縮登録し、通告・連絡の態勢を整えています。園長は、様子を察知してそれとなく声をかけ、心の内を聴くよう配慮しています。</p> <p>●アレルギー疾患の対応については、マニュアルを備え、食物アレルギー疾患についての必要知識を備え、新入園児説明会時の面談に把握して個別に対応しています。毎月の献立表で保護者、担任、栄養士で確認を行い、情報はクラス職員間で共有するよう体制を整えています。給食時は、テーブルや食器、トレイ、台布巾、スポンジ全て別にし、名札を貼り、誤飲誤食防止を徹底しています。除去食対応の管理は、栄養士、担任で連携して対応しています。</p> <p>●文化が異なる子どもへの対応は、文化や生活習慣、表現、食事、考え方の違いについて理解し、違いを認めて尊重するようにしています。宗教食については、給食での食事の持ち込みを受け入れています。外国籍にかかわる保護者については、法人本部、関連企業にバイリンガルの職員が在籍し、意思疎通が困難な場合は対応する体制があります。</p>
<p>I - 6 苦情解決体制</p> 	<p>●保護者からの苦情等に関しては、入園のご案内に明記し、新入園児説明会時に配付し、説明をしています。苦情について、相談・苦情窓口、相談・苦情解決責任者、第三者委員連絡先等を玄関に掲示し、意見箱を設置して要望等に対応する仕組みを整えています。今年度、第三者評価を受審し、利用者アンケートから意見等を抽出し、今後役に立てていく予定にしています。</p> <p>●保護者からの意見、苦情等については、苦情解決対応マニュアルを整備し、マニュアルに沿い、速やかに職員会議で検討し、当該保護者に直接、解決策を示し、園全体に関する意見等は、全保護者に周知するようにしています。過去の苦情やトラブルの検討および対処の結果は、事故(クレーム)報告書としてまとめ、法</p>

	<p>人本部に報告すると共に、園で保管し、再発防止に努めています。</p> <p>また、外部の権利擁護機関（都筑区役所・警察署等）と連携し、情報交換も行っています。</p>
--	--

評価領域 II サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>II-1 保育内容 [遊び]</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●玩具や教材は、子どもが自発的に活動できるよう、可動式の低い遊具棚に入れ、自由に取り出して遊べるようにし、保育室内に敷物や衝立等でコーナーを設置し、子どもが落ち着いて遊べるよう工夫しています。個別の取り組みでは、「英会話」は1クラスを2つに分けて同じカリキュラムを各1回（20分程度）実施し、3歳児からガウディの7つのカテゴリー（言語、流暢、数、空間、知覚、推理、連想記憶）の「知育」の学習や、「体操」では、異年齢で運動習得を行っています。 ●一斉活動として、自由遊びでは子どもたちの主体性を大切に、のびのびと過ごせるよう、年齢に応じた集団遊びができるよう工夫しています。例えば、読み聞かせや子どもが好む絵本から取り入れてリズム遊びに展開し、各クラスで体を使った表現活動につなげる等、子どもが楽しめるよう工夫しています。 ●動植物の飼育や栽培の取り組みでは、近隣の農家に畑を借りて野菜作りの指導を受け、さつま芋は植え付けから、成長を観察し、収穫の体験を行う等、土に触れ、食物の成長に実際に触れ、興味関心につながることを大切にしています。飼育では、散歩等により身近な生き物に親しみ、「せせらぎ公園」でカブト虫、クワガタ、セミなどを採取し、飼育を行い、関心や愛情を育み、命の尊さを知る機会を持つようにしています。 ●年齢や発達状況に応じて、子どもが自発的に自由に表現できる環境作りを行い、廃材等を用意し、創意工夫をして自由に表現しています。また、自由画帳、クレヨンを使用して表現を楽しみ、保育士のピアノに合わせて全員で歌の合唱や、リズム遊び等、音楽に合わせて体で表現する遊びを楽しんでいます。また、クラスの枠を外し、個々に好きなコーナーや一緒に遊びたい保育士、友達と自由に遊べる時間を設けています。

	<p>●子ども同士のケンカについては、危険のないよう見守り、介入のタイミングを見極め、互いに言葉で気持ちを伝え、子ども同士で解決ができるよう援助しています。保育士は、定期的にロールプレイングを行い、子どもへの接し方や言葉かけ等を見直す機会を設け、温かい態度、言葉遣いで接するよう心がけ、統一した対応に努めています。異年齢での交流は、絵本コーナーを利用して場を設け、また、散歩の時間やリズム遊びを設定して異年齢で交流をしています。</p> <p>●健康増進については、園では園庭遊びに加え、散歩も積極的に取り入れ、体力作りを促進しています。乳児にはハイハイランド等、発達に応じて運動能力が高められるよう環境作りをしています。屋外遊びの際はネックガードの付いた帽子を使用し、紫外線対策に努めています。健康については、健康状態を把握し、散歩の先行や遊びの内容を考慮し、既往歴に配慮して遊びを選択する等、配慮しています。</p>
<p>II-1 保育内容 [生活]</p> 	<p>●食事では、クラスごとに少人数のグループに分かれて給食を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるように工夫しています。食事は、規定量の完食を目指すのではなく、一人一人の食べられる量に合わせて調整しています。年に1~2回はバイキング形式で楽しく食べる機会を設けています。乳児の授乳では、保育士が抱っこをして、優しく声をかけながら1対1で授乳を行っています。離乳食は原則、6か月から開始し、「離乳食に関するマニュアル」に沿って家庭と連携しながら、子どものペースを尊重して進めています。</p> <p>●園では、旬の食材を活用した「ラッキーデー」（星型にカットした食材がお皿に入っているとラッキー）を月1回設け、旬の食材の料理への興味・関心につなげ、子どもが楽しむ取り組みを行っています。また、「郷土食」の日を月1回設定し、郷土食を通して、郷土に係る学びの時間を設け、総合的に活動（調理活動、縦割り保育、保護者の保育参加等）を行い、保護者への食育や、調理活動では地方出身の保護者に郷土食を教わる等、いろいろな料理を学んでいます。食器については、現在、使用期間・安全性を確保してメラミン製を使用していますが、来年度から年長児から順次、強化磁器の食器に変更していく予定でいます。箸は年齢に応じた長さの異なる3種類を用意しています。</p>

●献立では、定期的に調理員は子どもたちと一緒に食事をを行い、喫食状況を把握し、毎日、残食の確認を行い、給食日誌に量を記録して喫食簿を用いて給食会議で保育士と献立について情報交換を図り、調理等の工夫・改善を行っています。給食は、温かい物は温かく食べられるよう提供し、みそ汁・主食は、保育室で個々の食べられる量に合わせて盛り付けをしています。献立表は、前月に保護者に配付し、行事食の作り方等も掲載して家庭での食育につなげています。また、園だよりで食に関する情報を発信し、給食だよりではレシピや子どもの食事の様子を掲載しています。お誕生会（月1回）では誕生児の保護者も参加し、子どもたちと一緒に給食を食べる機会を設けています。

●午睡について、子どもが安心して入眠できるよう採光に配慮し、保育士は子守唄を歌ったり、傍について見守り、眠れない子どもには無理強いをせず、静かにして休息するよう伝えていきます。SIDSについては、ブレスチェック表を用いて0歳児は5分ごと、1歳～2歳児は10分ごとに行っています。年長児は就学を見据え、適当な時期から午睡を止め、絵本やブロックで静かに遊ぶようにしています。

●排泄については、個人差を尊重し、保護者と密に連携をとりながら、家庭での状況も把握し、排泄チェック表を活用して子どものリズムに合わせて進めています。1歳児から個々に合わせて便座に慣れるようにし、できたら褒めるようにし、2歳児から本格的にトイレトレーニングを進めています。排泄に失敗した際は、優しく言葉をかけて、子どもの自尊心、羞恥心に配慮しながら温水シャワーを活用する等、気持ち良く過ごせるようにしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



●健康管理は、職員マニュアル（4-1, 2, 3）に沿い、毎日個人別の健康日誌に記入し、子ども一人一人の健康状態を把握し、職員に周知しています。既往症については、入園時の健康記録を基に継続して確認しています。変化が見られた場合は、ミーティングや引継ぎノートにて職員間で共有を図り、主任、園長に報告しています。歯磨きについては、歯が生えた頃から歯ブラシを家庭から持参してもらい、歯ブラシを口に入れて親しむことから始めています。

	<p>●感染症等については、感染症等への対応に関するマニュアルを備え、職員に周知しています。園内で感染症が発生した場合は、速やかに貼紙やホワイトボードに明示して周知し、園全体で情報を共有し、園内感染拡散の防止を第一に注意喚起を図っています。また、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応について必要部分を記載して周知しています。毎月、保健だよりを発行し、タイムリーに情報を発信しています。保育中に発症した時は、速やかに保護者へ連絡し、事務室に子どもを隔離し、お迎えを依頼していますが、保護者の事情も考慮して対応を相談しています。地域や最新の感染症情報は、区役所や近隣等から入手し、情報は職員間で共有を図り、予防を喚起しています。</p> <p>●定期的に健康診断・歯科検診を実施し、結果は職員間で共有し、健康台帳に記録し、保護者に知らせています。個別の健康台帳には健康状態や、既往歴を管理し、保護者と連携を図り、子どもの健康に配慮しています。</p> <p>●園内で子どもに変化が生じた場合は、様子を見た上で速やかに保護者に連絡し、必要に応じて、嘱託医やかかりつけ医に相談し、受診する医療施設を確認して必ず、保護者に連絡するようにしています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<p>●衛生管理について、衛生管理のマニュアル、感染症に関する対応、ノロウイルスに関する対応マニュアルを備え、マニュアルに沿って処置方法を周知し、各保育室に嘔吐処理セットを常備しています。洗面所には手洗いの手順をわかりやすく図で示し、手洗いの歌を歌いながら日頃から手洗い励行し、子どもたちが習慣付くようにしています。玄関や各保育室には手指の消毒液を設置しています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<p>●年間計画に沿って毎月、避難訓練を実施し、ハザードマップに避難場所を明示し、訓練の反省点を次に生かしています。法人でBCP（事業継続計画）を導入し、緊急事態への対応力の向上に取り組む、職員一人一人が役割と責任を持ち、年1回、大規模災害を想定した引き渡し訓練を実施し、継続して訓練に取り組んでいます。緊急連絡網は保護者の連絡先（メール含む）一覧を整備し、連絡メールや連絡網を活用した訓練も実施しています。園内にAEDを設置し、職員は消防署の救急救命法およびAEDの使い方を受講し、緊急時に備えています。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの事故やケガについて、保育中に発生した場合は、必ず保護者に連絡を行い、クラスの健康日誌・引継ぎノートに記録し、職員間で周知を図り、再発防止に努めています。通院が必要なケガや事故の際は、事故報告書やジコリハット（ヒヤリハットの少し重いもの）に記載し、医師の指示を保護者に必ず報告しています。 ●外部からの侵入に対して、玄関の錠はICカード（職員、保護者）のみとし、不審者の侵入防止と共に登降園チェックにも使用しています。不審者対応のマニュアルを備え、定期的に職員の防犯訓練を実施しています。門の錠については体制や防止策を講じていますが、今後さらに強化を図るよう取り組む予定にしています。
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重について、職員マニュアル（3-23～3-28）を活用して園内研修を実施し、保育、保育士の基本と心得、子どもに対して威圧的な言葉遣い、強制、自尊心を傷つけるような保育は行わないよう努め、穏やかにわかりやすい言葉で話すよう心がけています。また、保育基準を徹底し、保育士倫理綱領を全保育士が保有し、研修および研鑽を図っています。 ●他人の視線を意識せず過ごせる場所として、廊下やコーナー等で子どもが一人で過ごせる場所とし、必要に応じて家具の陰等でゆっくり1対1で話すよう配慮しています。プライバシー確保が必要な場合は、職員室や空き保育室を活用する場合があります。 ●個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアル（3-31・3-32）を備え、職員は、入社時に個人情報の取り扱いについて説明を受け、秘密保持に関する誓約書を提出しています。また、マニュアルの読み合わせを行い、職員は理解を深めています。保護者に対しては、入園のご案内に個人情報の取り扱いについて記載し、入園時に「緊急連絡網の作成並びに配付に関してのお願い」、「園児の写真・映像等の承諾のお願い」を配付し、了承を得、子どもの写真掲載（ホームページ等）には承諾を得た家庭のみ掲載するように肖像権に配慮しています。実習生の受け入れの際も守秘義務・個人情報取り扱いについて説明を行い、誓約書を交わしています。個人情報に関する記録は、施錠できる場所に保管・管理を徹底しています。 ●性差への先入感、差別は排除し、名簿は生年月日順にし、並び順、グループ分けも性別にせず、配役や衣装、絵画の配色等の選

	<p>扱も子どもの自由を尊重しています。職員は、ジェンダーフリーの研修を行い、共通認識を持ち保育にあたっています。性差で差別しないように心がけていますが、グループ分けではバランスを配慮してグループを作る場合もあります。</p>
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育理念・保育目標、保育方針は、新入園児説明会時に説明を行い、玄関に掲示しています。入園のご案内、パンフレットの見出しに基本理念を掲載しています。意見箱の設置、年度末の保護者会や懇談会で1年の振り返りを伝え、保護者の意見を聞く機会を設け、日々の保育を理解してもらえよう心がけ、日々理念に基づいた保育の実践に努めています。 ●園生活での様子や活動内容は、全クラスのクラスボードで伝えています。園では、保護者と共有の連絡帳を設け、それぞれの思いを綴ることで共感し、子どもの成長を共に喜び合えるようにしています。2歳児以下は複写式の連絡帳を活用し、毎日情報交換を図り、3歳児以上はノートにて週1~2回知らせています。また、引き継ぎノート（保護者との連絡、伝達事項）や健康日誌を活用し、送迎時に担任または、他職員から子どもの様子を伝えられるようにしています。 ●個人面談は、保護者の要望に応じて実施し、随時受け付けています。保護者懇談会は年2回行い、保護者が参加できるよう土曜日に開催しています。保護者の相談については、相談室か空き保育室を使用し、プライバシーを確保できるように配慮しています。相談は担当保育士が対応し、内容に応じて主任保育士や園長が同席し、適切な対応ができるようにしています。園では、マニュアル（8-10、8-11）の個人面談や懇談会のポイントの読み合わせを行い、対応が身につけられるよう研鑽しています。登降園時には、保護者が気軽に話ができる雰囲気作りを心がけています。必要に応じて相談内容は記録し、継続的にフォローをするよう努めています。 ●園生活に関する情報は、1日の保育内容をクラスボードで知らせ、毎月の園だよりやクラスだよりで子どもたちの様子を伝えています。また、行事や各クラスの日常の保育状況を写真に撮り、業者により販売しています。ビデオ記録は今後、検討していく予定です。

	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の保育参加・参観については、年間行事予定を配付し、保護者が予定を立てやすいように配慮し、積極的に受け入れ、いつでも希望があれば保育参加を受け入れています。懇談会、保護者会に参加できなかった保護者には個別に説明しています。 ●保護者の自主的組織は現状、設けていませんが、園長、保育士は、保護者とのコミュニケーションに努め、親子クッキングや畑の作業等、随時保護者に参加希望を募り、交流を図り、良好な関係を構築しています。保護者からの要請では、年度によっては茶話会に出席しています。
--	---


評価領域 III 地域支援機能評価領域

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民との交流では、町内会に加入し、町内会長との連携もあり、地域の一員として地域の情報等を得、地域のニーズの把握につなげています。園長は、都筑区の園長会に参加し、地域のニーズを把握し、得た情報は職員に周知しています。近隣保育園とは年長児中心に定期的に交流を図り、情報を交換する機会にしています。 ●地域の子育て支援では、園庭開放、一時保育、育児相談、育児講座を実施し、地区の親子講座（プレびよルーム）では絵本の読み聞かせや親子のふれあい遊び、伝承遊びを企画し、他保育園と協働で実施しています。また、園庭開放や育児講座で利用者にアンケートを実施し、ニーズを把握するよう努めています。
<p>III-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民に対する園の情報提供では、都筑区の子育て情報サイト、広報よこはま都筑区版等に掲載して情報提供しています。保健だよりや、地域の情報（地区センターの催し物等）、園庭開放やプレびよルームの予定日を園外の掲示版に掲示しています。育児相談については、随時受け付けていますが、今後、定期的な育児相談日を設けた取り組みが期待されます。 ●関係機関・団体との連携では、主に園長、主任が担当し、リストを一覧にし、都筑区役所こども家庭支援課、都筑区の保健師、児童相談所と連携を図り、相談・助言を得られる関係を構築しています。近隣小学校（中川小、都筑小等）とも連携を図り、情報を共有し、不審者情報等も得られる体制を整えています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>●地域への園の理解促進の取り組みとしては、行事（節分、ひな祭り、夕涼み会等）に地域住民の方々を招待し、園の理解を促す機会につなげています。地域との交流では、散歩時に行き交う地域の方々に声をかけてもらったり、元気よく挨拶を交わし、地域の方と交流をしています。また、地域の行事に参加し、街の整備の花植えや、ハロウィンのシールラリーに参加し、地域の方々と交流を図っています。</p> <p>●子どもと地域との交流では、地域の文化・レクリエーション施設等を利用し、山内地区センターや古民家等、地域の文化に触れる機会を設けています。近所との交流ではお散歩で触れ合う他、地区センターを利用する老人等と触れ合い、交流を持っています。また、地域のスーパー等を活用し、食育の買物や、4歳児が5歳児の卒園式に飾る花の買い物に出かけています。</p>
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<p>●園のサービス内容等の情報提供は、パンフレットや法人のホームページに基本理念、園の概要を明示し、情報を提供しています。また、都筑区の広報誌、横浜市の「ヨコハマはびねずぽっと」等に園の紹介をしています。園見学者や来園者には、パンフレットを配付し、必要な園の情報を提供しています。</p> <p>●利用希望者の問合せは随時、対応し、園見学ができることをお知らせし、見学の日程を調整しています。園見学では園長が個別に丁寧に対応し、パンフレットを配付して説明をしています。</p>
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<p>●ボランティアの受け入れは、ボランティア受け入れマニュアルに沿い、担当は園長または主任とし、事前オリエンテーションを行い、マニュアル（6-4・6-5）に基づき、基本方針・守秘義務・人権・安全・衛生面等の詳細を説明して受け入れています。終了後は体験レポートを提出してもらい、関係団体にもコピーを送り、相互の反省とし今後の改善資料としています。</p> <p>●実習生の受け入れは、実習生受け入れマニュアル（6-1～6-3）に沿って、事前オリエンテーションにて園の基本理念・保育目標・守秘義務・人権・安全・衛生面についての説明を行い、実習のねらいや実習経験を基に実習生の希望を確認し、実習目的が達成できるようにクラス配置や実習計画を確認しています。実習受け入れ担当は園長が行い、実習担当は各クラスリーダーが行い、</p>

	実習最終日には受け入れクラスの担任、主任、園長が実習生と反省会を実施し、意見等は運営に生かしています。
--	---

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な人材の採用については、法人で保育所運営に必要な人材構成、要員を把握し、関連の保育園との人的交流も併せて人材確保に努めています。人材の補充については、十分な人材構成であるかを検討し、必要があれば補充する体制で運営しています。必要な人材の育成について、キャリアパスを一般職員、中堅職員、チームリーダー、管理者等、階層別に職務基準書を基にした「望ましい保育者像」を明示し、OJT 教育や「保育を語る会」を開催し、PDCA の体制を整え、質の向上を図っています。また、職員一人一人に自己評価を実施し、年間目標を掲げ、園長と年 4 回、自己研鑽面談を実施し、助言・指導を行い、来年度の各自の意向も聞いています。法人では、リクルートの「キッズリー保育者ケア」を導入し、定期的に職員一人一人の仕事の価値観や仕事上の不安要素を把握し、働きやすい環境作りに取り組んでいます。 ●正規職員、パート職員の研修体制については、年間の研修計画に沿って必要な研修に参加できるよう配慮し、受講後は職員会議で研修内容を発表し、全職員で専門技術、知識を共有し、保育に生かしています。外部研修については研修案内を掲示し、希望者が積極的に参加できるようにしています。研修レポートは必ず提出を定め、職員間で自由に閲覧できるようファイルして共有化を図っています。 ●パート職員の配置や業務内容については、職員マニュアルに「わおわおで働く基本」が明示され、基本は「心を合わせて行う」とし、パート職員も正規職員と同じ姿勢で職務にあたっています。パート職員も職員会議、クラス会議等にできる限り参加を促し、職員全員で情報共有を図り、資質向上に努めています。また、園内研修にもパート職員が参加できるよう努力しています。パート職員の指導は基本的にクラスリーダーが担当し、主任は全体のコミュニケーションを図り、パート職員間の連絡係（2年目の保育士）も設け、円滑に保育を進めています。

V-2 職員の技術の向上



●園では、外部から講師を招き、エピペンの講習、消防署による救急救命法の講習等実施し、職員の技術向上に努めています。また、災害時のBCPの策定に伴い、法人系列園で安全委員会（月1回）を設け、法人本部を中心として各園から1名が参加し、ヒヤリハットのまとめの共有を図り、全園で回覧し、改善に取り組んでいます。実習では、職員が災害でケガをした想定を立て、リヤカーで運ぶ訓練も実施しています。

●保育士の自己評価は、毎年、自己評価を実施し、年4回自己研鑽面談を行い、資質向上に向けて取り組んでいます。年度初めに自己評価の目標、ねらいを揚げ、職員一人一人の自己評価チェックリストを四半期ごとに計画し、意図した保育のねらいと関連付けて行っています。月案・週案は子どもの育ちや意欲、取り組む過程を重視した実践の評価を行い、改善に努めています。保育所の自己評価については、毎月、カリキュラム会議でクラスの保育の振り返りを行い、職員間で話し合いを行っています。振り返りを通して次の計画作成に反映させています。また、職員の自己評価、面談における園に関する課題について話し合い、保育とガウディアの徳育との関連を考慮して改善に努めています。

V-3 職員のモチベーション維持



●職務分担表を基に、園長、主任の下に現場のリーダーとしてクラスリーダを配置し、定期的に会議を通してクラスリーダーから意見を吸い上げ、改善に生かしています。職員からの保育や業務提案は、「提案ボックス」を設置して職員の意見を運営に取り入れ、職員との面談の前にはアンケートを実施する等、職員の意見や希望等を聞く体制を整えています。また、法人本部にも提案する制度があります。法人で階層別に「望ましい保育者像」を示し、職務基準書を作成し、望ましい保育者像の具現化に向けて研修体系も完備しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<p>●職員の守るべき法・規範・倫理等は、就業規則に明示し、保育士倫理綱領を理解し、職員は守るべき倫理を遵守しています。また、実践に即した規定として「職員マニュアル」は全職員に配付し、職員会議や園内研修でマニュアルの読み合わせを行い、共通理解を図っています。リスクマネジメント・コンプライアンスについては、全国の他施設で発生した不正・不適切な事案、事故事例等の情報を、会議やミーティング時に取り上げて周知し、他人事とせず、意識して行動するよう周知し、守るべき規範について再確認しています。経営、運営状況等の情報は社会福祉法人であり、公開しています。</p> <p>●わおわお仲町台保育園は、全電化保育施設（エコ保育所）であり、省エネルギーと環境配慮の促進に向けて開設時にオール電化、夜間電力使用、床暖房等を考慮して建設され、環境整備を実行しています。横浜市の条例に基づきゴミ減量化や、リサイクルに取り組み、省エネルギーの促進では、節電・節水を心がけ、全体で励行しています。</p>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<p>●園の理念等については職員マニュアルに明文化し、理念に沿って園のビジョンを掲げ、園長・主任がクラス会議で大切な点を職員に伝えています。毎月、カリキュラム会議や職員会議で基本理念や保育目標について理解を促し、保育の実践につなげています。園内研修（月1回）では話し合いを中心に実施し、全職員で計画を立てるようにしています。園長は、理念、保育目標が保育で反映されるよう、全体の意識統一に尽力しています。</p> <p>●重要な意思決定については、職員および保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明し、保護者アンケートを活用して保護者の「声」を確認し、法人本部、全職員と検討して進めています。園長は、登降園時に保護者が気軽に声をかけられるよう配慮しています。</p> <p>●スーパーバイズのできる主任クラスの育成では、法人系列園合同で園長会議、園長・主任会議を定期的に行い、研修や情報交換を行い、責任者としての育成を実施すると共に園全体を把握する主任の育成に努めています。主任は、自己評価票と自己評価チェック表、職務基準を基に個々の職員の業務状況を把握し、乳</p>

	<p>児・幼児クラスの連携が図れるよう援助しています。また、職員の心身の状況に配慮し、職員個々の能力や経験に応じて助言や指導を行い、全体のチームワーク、円滑な業務に向けて尽力しています。</p>
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<p>●園長は、事業運営面に影響のある情報に関して、法人、法人系列園との会議を通して、意向、情報を収集し、主任と共に公式・非公式に精査して検討の上、相談・周知すべき内容について職員会議で取り上げ、業務改善につなげるよう取り組んでいます。また、横浜市社会福祉協議会、日本こども育成協議会に会員登録し、情報を収集・分析しています。園長会議等で得た情報については、リーダー会議（園長、主任、乳・幼児リーダー、クラスリーダー、状況に応じて栄養士、看護師）で検討し、必要な情報は職員会議等で周知しています。園長は、園の現体制を見直し、改善すべき点を見極め、安定した園運営に努めています。</p> <p>●法人本部で中・長期的な事業計画を作成し、法人本部役員は日本こども育成協議会、外部団体主催の研修会等に出席し、情報を分析し、今後の運営方向を常に検討しています。わおわお仲町台保育園独自にビジョンを3年・5年・10年単位で作成し、施設長育成計画書を基に後継者の育成に努め、次期、次々期リーダー候補には園内研修のコーディネートを任せています。保護者支援では、「ポレポレの部屋」（スワヒリ語）を園内に設定し、17：30～19：30に夕食（400円）を摂りながら「一緒に保育園を作って行こう」というテーマで話し合う等、より良い園作りに取り組んでいます。</p>

■子どもの様子・保育の様子

<0歳児～1歳児>

【食事・午睡の様子】

●0歳児の午睡の観察では、食事が11:30頃から始まり、もうすぐ1歳児になる時期でもあり、4月生まれの子どもは既に1歳10カ月でほとんど1歳児に近く、生まれの早い子どももほぼ1歳であり離乳食はほとんど終わっていました。食事は、子どもの好きなようにおおらかに行われており、手づかみで食べている子どもや、スプーンでお皿の中をかき回している子ども等、思い思いに表情も楽しそうに食べていました。食べている最中でも眠そうな子どももいました。1歳児の食事では、テーブルを囲んで座り、みんなご機嫌に楽しそうに食事をしていました。調査者が食事を終えて保育室に行くと、0歳児、1歳児ともほとんど午睡に入っており、快適な環境の中、ぐっすりとした穏やかな顔で眠りについていました。

<2歳児>

【お散歩】

●調査訪問1日目、午前中に2歳児のお散歩に同行しました。散歩先は園の北側にある勝田南の「てんとう虫公園」です。2歳児クラス（うさぎ組）は20名ですが、お散歩に行くのは18名です。保育士4名が付き、1人の保育士が片手に2人ずつ4名の子どもと手をつなぎ、残り2名は中でも月齢の高い子ども同士で手をつなぎます。出発～散歩道中は、中々手をつながない子や、ゆっくり歩いてみたり、急に走ってみたりする子、保育士と直接手をつなぎたい子、右手でつなぎたい子等、「こっちがいい」、「つながない」と言いながら自我の主張に保育士はなだめながら進みます。仲町台うさぎ公園の前を通り、子どもたちの前にも他の2園の子どもたちが歩いており、てんとう虫公園の他には「せせらぎ公園」もあるので仲町台の遊歩道は保育園の子どもたちにも人気です。途中、駅の近くの道路脇に花々が植えられおり、子どもの絵で「お花を大切にします」、「柵の中には入らない」等のかわいい看板が設けられ、わおわお仲町台保育園も参加しているようです。「てんとう虫公園」に到着すると既に他の保育園の子どもたちが遊んでいました。てんとう虫公園は他の公園に比べて小ぶりですが、園内には芝生の築山や、小さい木々や草の生い茂ったブッシュ、登り坂、階段等が付いた滑り台、深い砂場があります。子どもたちは先ず水筒の水を飲み、たくさんある同じような水筒をちゃんと自分用と認識しています。遊びでは、芝生の築山と砂場が人気のようで、保育士が持参した遊具で遊び始め、子どもたちは「砂のお食事」を作って「はい、どうぞ」と調査者にもおもてなしをしてくれます。一人の子どもが「パーティをやるよ!」と言い、公園には実のなる木はないのでパーティのメニューは砂と石を工夫して作

り始めました。調査者もパーティの席に座ってと言われ、「ムシャムシャ！おいしい」と食事を食べるとみんな笑顔に包まれました。保育士は砂場に2名、滑り台に1名、もう1名は公園全体を見渡して安全を確認し見守っています。次に2歳児の1番人気の築山遊びでは、今の時期、芝生は枯草になっており、洋服に葉っぱや泥をたくさん付けながら子どもたちは築山の上からゴロゴロ転がり楽しそうに遊んでいます。子どもが「おじいちゃんも～」と調査者に言い、「おじいちゃんは嫌だよ！」と言うものの一緒に築山の上に立つと、子どもたちは喜んで「ゴロゴロ」を続けます。保育士が「いつもあまり話さない子なのに今日は良く話をしますね」という子どももいて、築山もおじいちゃんも気に入ってくれたようでした。滑り台では、飛び石と縄の坂を登っている子どもがいて、石と石の間が開いている場所では精一杯足を伸ばして渡ろうとし、保育士が見守りながらがんばって上に登れ、「やったー！」と自慢気で、保育士も「やったネ！」と共に笑顔で喜び合っていました。築山で遊んでいた子どもが調査者の手を引っ張り、「また、登ろう」と誘いに来てまた「ゴロゴロ」を見、砂場で遊んでいる子どもに「今から築山でご飯にするから」と誘われ、砂で作ってくれた食事をいただきました。築山には1つの可愛い花をつけた小さな木があり、子ども同士で「取ってもいい？」、「だめよ！これから咲くんだから～」との会話に一人の子どもがふざけて取る真似をすると「だめー！」と別の子どもが入ってきて1つの花に子ども同士の会話が弾みます。子どもから「おじいちゃん、また、山に登ろうよ」と声をかけてもらい、わおわお仲町台保育園の2歳児の子どもたちはとても人懐っこく、純粋で素直に成長している姿に触れることができました。

<1歳～5歳児>

【延長保育】

●1日目の夕方に延長保育を見学し、18：15頃までは1階と2階に分かれ、18：10～18：15頃に幼児は1階の1歳児の部屋に合流します。延長保育を利用しない子どもたちは15：30頃までにお迎えが来て帰ります。夜食は18：30頃で本日の夜食提供は6名であり、6名も19：00までにほとんどお迎えが来る等、比較のお迎えは早いようです。延長利用の子どもたちは年齢別にそれぞれの保育室で遊び、合同保育では気に入った玩具で静かに遊び、長時間保育を視野に入れた環境作りの中で子どもにとってはクールダウンができ、保育士に見守られながら落ち着いてお迎えを待っていました。長い保育園生活の後、19：30頃に家に着けばお風呂に入って十分睡眠も取れることでしょう。

<4歳～5歳児>

【2日目の朝の様子】

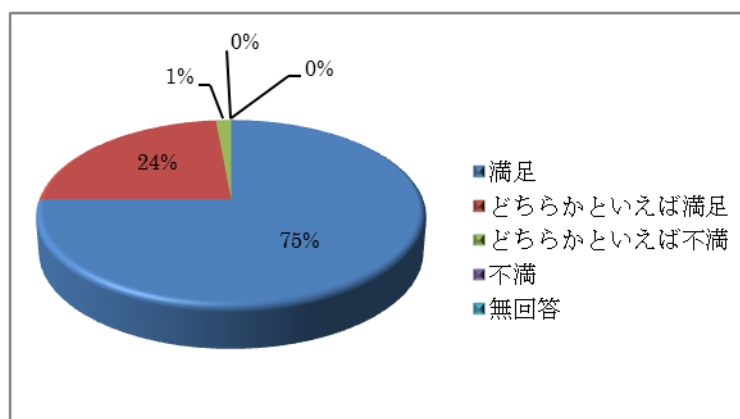
●5歳児はドッジボールの地域大会の日で、朝1番に出かけます。近隣の保育園の園庭で行われ、4歳児はその応援と一緒に出かけます。5歳児と4歳児が園庭に集合し、靴を履いて整列をして5歳児が先に出発します。5歳児は対外試合で気合が入っており、表情も高揚していました。「がんばって！」の声に「がんばってくる！」、「いってきます」と明るく出かけ、次いで4歳児も応援に出かけました。5歳児は対外試合に意識は高揚していましたが、結果は2勝した後、3戦目で負けたそうです。次回は期待されます。

【わおおお仲町台保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	29年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 97）
有効回答数	68 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	70%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
4 世帯	14 世帯	13 世帯	16 世帯	8 世帯	13 世帯

*回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、日常の保育内容の「生活」についての項目が、総体的に『満足』が高く、『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、「ほぼ満足」という）見ると、中でも「基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについて」は「ほぼ満足」において 100%を得ています。『満足』での高い項目では、同様に「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」についてであり、『満足』では 85%を示しています。「自然に触れたり、地域に関わる等の、園外活動」についても『満足』は 76%を得ています。また、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれる等、残業等で迎えが遅くなる場合の対応」については『満足』は 75%となっています。「ほぼ満足」とした高い項目では、同様に「基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについて」（100%）と、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応」、「年間保育や行事についての説明」の 2 項目でも、「ほぼ満足」は 99%を得ています。また、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいる」、「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供について」、「あなたのお子さんが大切にされているか」についての 3 項目は、「ほぼ満足」は 98%を示しており、他の項目についても、「ほぼ満足」においては、高い評価を得ています。

●アンケートの自由記述からは、「職員の皆さんがとても子どもに良くしてくれて、子どもも楽しそうに通園している」、「明るい雰囲気の中で、きれいに清掃され、子どもも快適に過ごしている」、「子どもだけでなく保護者にも良くしてくれて、困っていることがあると親身になって相談に乗ってくれる」、「自分たちで育てた野菜で料理をしたり、食育にも力を入れている」、「どの先生（保育士）にも懐いている子どもたちを見ると、分け隔てなく接してくれている」等、保育士の対応、園全体の対応、園の特徴を良く理解されているのがわかり、保護者からは高い評価を得ています。

●『不満』および、比較的『満足』が低い項目は、ほとんどありませんが、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」が『不満』6%を示し、中でも比較的『満足』も低い項目として挙がっています。『満足』では41%、どちらかといえば満足29%、どちらかといえば不満22%、『不満』6%であり、その他1%にて、「ほぼ満足」は70%という結果になっています。保護者の意見からは、「柵の脇から簡単に入れてしまう」、「錠錠がきちんとされていない時がある」等の意見が挙がり、安全、防犯対策を講じる対応等に期待されます。

●アンケートの主な意見では、保護者と話す機会をもう少し増やしてほしい、「屋上の園庭があまり活用されていない」等の意見をいただいています。それぞれに関しては園から説明、理解を促していると思いますが、保護者からの意見、要望等について受け止め、利用者の理解や協力につなげられるよう、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、園の良い点を生かし、継続してさらなる良い園作りを期待しています。

●総合的に、『満足』は75%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は24%、『どちらかといえば不満』1%にて、サービスの提供について、99%「ほぼ満足」している、と捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

社会福祉法人わおわお仲町台保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示しています。

問 1

利用者調査項目		よく知って いる	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	38%	56%	6%	0%	0%	0%
		26人	38人	4人	0人	0人	0人
		賛同でき る	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	75%	19%	0%	0%	0%	6%
		51人	13人	0人	0人	0人	4人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	60%	24%	3%	0%	13%	0%
		41人	16人	2人	0人	9人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・新設だったため、見学していない。(3) ・見学していない。(4) ・入園説明会と入園時の園長、主任が違いました。結果的には入園後の現在の方が体制が整い、良い環境になったと思っています。(2) ・新規園だったので、違う場所のグループ園を見学。とても対応は良かった。 ・新設園だったので説明会だけでした。 					
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	51%	37%	9%	0%	3%	0%
		35人	25人	6人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・受けていない。 					

5	園の目標や方針についての説明には	54%	41%	1%	0%	3%	0%
		37人	28人	1人	0人	2人	0人
《その他意見》		・時間が経っていて思い出せません。					
6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	56%	38%	3%	0%	3%	0%
		38人	26人	2人	0人	2人	0人
《その他意見》		・特になかった。					
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	50%	44%	3%	1%	1%	0%
		34人	30人	2人	1人	1人	0人
《その他意見》							
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	46%	43%	6%	4%	1%	0%
		31人	29人	4人	3人	1人	0人
《その他意見》		・延長料が事前申請、支払いのため、預けなくても支払いが発生する。					

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	56%	43%	0%	1%	0%	0%
		38人	29人	0人	1人	0人	0人
《その他意見》							
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	54%	40%	1%	0%	4%	0%
		37人	27人	1人	0人	3人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・要望を言うタイミングなし。 ・わからない。 ・要望内容がわからないため、活かされているかわからない。 ・良く考えられていると思う。 					

問 4 日常の保育内容について
「遊び」について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	66%	29%	3%	0%	1%	0%
		45人	20人	2人	0人	1人	0人
《その他意見》		・満足しているが、午後もう少し外で遊ばせたい。					
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	60%	24%	13%	1%	1%	0%
		41人	16人	9人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・天気が良くても室内遊びの時間がたまにあり、子どもの体力があり余っている時がある。 ・もう少し散歩が多くても良いのではと思います。 ・現クラスは若干少なめ。その時の学年の先生の数にも影響ありそう。(少ないと手が回りにくい) 					
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に 使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	65%	28%	1%	1%	4%	0%
		44人	19人	1人	1人	3人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・どんなおもちゃがあるのか知らない。 ・教材があるか不明。 ・ほとんど原色の遊具は安っぽい牛乳パックの手作り。HPで受ける印象と異なる。 					
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動に ついては	76%	21%	3%	0%	0%	0%
		52人	14人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》		・上のクラスになれば増えそう。					
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もて ているかについては	69%	25%	4%	0%	1%	0%
		47人	17人	3人	0人	1人	0人
《その他意見》		・友達とのかかわりはわからない。					
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みにつ いては	54%	41%	3%	0%	1%	0%
		37人	28人	2人	0人	1人	0人
《その他意見》		・わからない。					

「生活」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	71%	26%	0%	1%	1%	0%
		48人	18人	0人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・量が少なく、少し寂しいと思います。 ・あまり残さなかったのに、残すようになった。 					
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71%	25%	3%	0%	0%	1%
		48人	17人	1人	0人	0人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・食べること自体は楽しそう。でも、お迎えの時にはお腹を空かせています。 					
19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	85%	15%	0%	0%	0%	0%
		58人	10人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗っている子をきちんと見ていない。 					
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	65%	29%	1%	3%	1%	0%
		44人	20人	1人	2人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・4歳以降は夜なかなか寝ないかもしれないので、昼寝はなしでも良いかも。 					
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	60%	21%	3%	0%	15%	1%
		41人	14人	2人	0人	10人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・まだ行っていない。(4) ・わからない。(2) ・特に話がない。 ・すでにおむつが外れてからの入園でした。(2) ・おむつが外れてからの入園だったのでわからないが、他の子を見ている限り良いと思う。 					
22	お子さんの体調への気配りについては	72%	25%	1%	1%	0%	0%
		49人	17人	1人	1人	0人	0人
《その他意見》							
23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	65%	25%	6%	3%	0%	1%
		44人	17人	4人	2人	0人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・とても丁寧に対応していただいています。 					

問5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	50%	38%	6%	3%	3%	0%
		34人	26人	4人	2人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が狭いのが残念。 ・HPの印象と全く異なる。 ・園庭が土ではない。狭い。 					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	63%	34%	3%	0%	0%	0%
		43人	23人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・本当はコーナーごとに区切って遊びに集中できる環境にしてほしい。 					
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	41%	29%	22%	6%	1%	0%
		28人	20人	15人	4人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・対策は取られているが、施錠がきちんとされていないかったり、柵の脇から簡単に侵入できそうとは思ってしまう。 					
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	59%	34%	7%	0%	0%	0%
		40人	23人	5人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・開園当時の看護師さんの方が情報共有は丁寧だった。 					

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	49%	43%	6%	1%	1%	0%
		33人	29人	4人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・不明。 					
29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	69%	29%	1%	0%	0%	0%
		47人	20人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							

30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	71%	26%	3%	0%	0%	0%
		48人	18人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	47%	37%	10%	3%	1%	1%
		32人	25人	7人	2人	1人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟を他園に登園させていたことがあり、その時は軽く話しながら様子を教えてもらったが、全くない時もあるので、もう少しどんな様子が聞ける嬉しい。 ・先生により対応が異なる。(2) ・幼児クラスに入ってから激減したが、聞けば答えてくれている。 					
32	お子さんの重要な情報の連絡体制については	51%	40%	3%	3%	3%	0%
		35人	27人	2人	2人	2人	0人
《その他意見》		・よくわからず。					
33	保護者からの相談事への対応には	56%	40%	1%	0%	3%	0%
		38人	27人	1人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる環境ではない。 ・アンケート用紙がどこにあるか、わかりにくい。 					
34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	75%	24%	0%	0%	1%	0%
		51人	16人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》							

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	69%	29%	1%	0%	0%	0%
		47人	20人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
36	あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	74%	24%	1%	0%	1%	0%
		50人	16人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・先生の顔をうかがっているように見える。					

37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	56%	28%	3%	0%	10%	3%
		38人	19人	2人	0人	7人	2人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー等なし（4） ・答えられるほど詳細を知りません。 ・現在情報がない。 					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66%	31%	1%	0%	1%	0%
		45人	21人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・満足よりではあるが、時々先生の様子を伺いながら子どもを預けたりすることは、正直ある。 					
39	意見や要望への対応については	62%	35%	3%	0%	0%	0%
		42人	24人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							

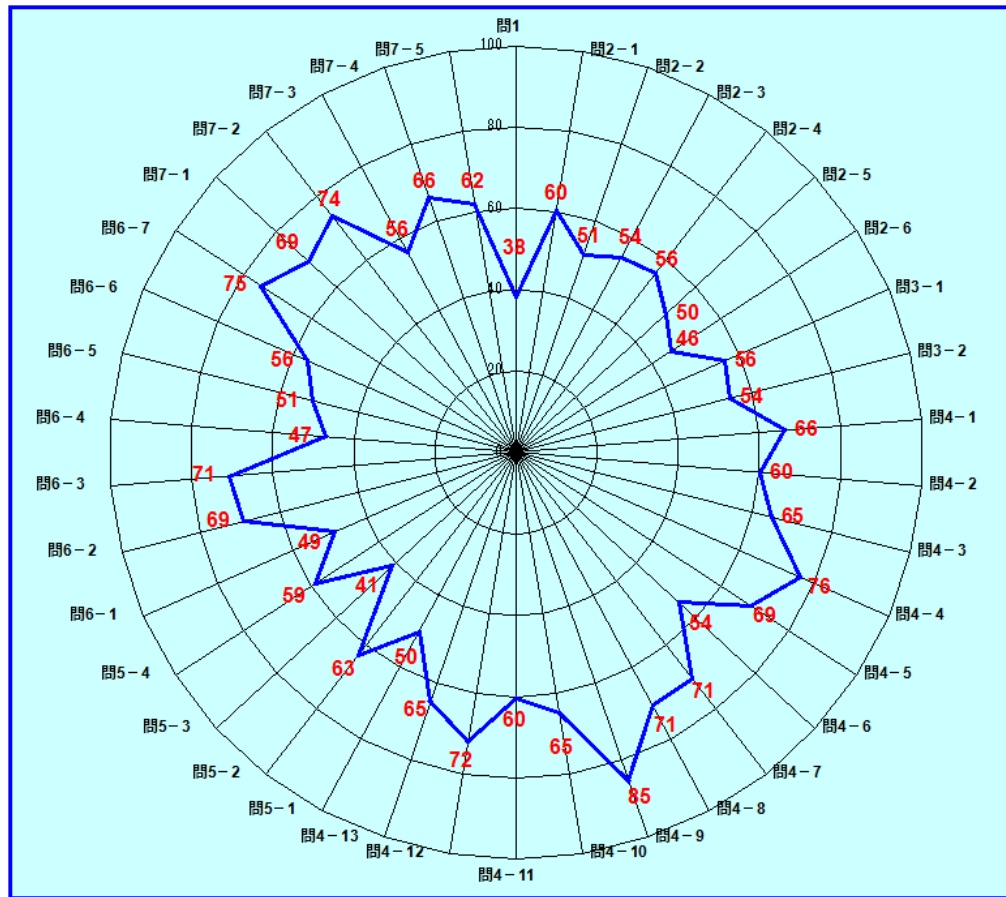
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	75%	24%	1%	0%	0%
		51人	16人	1人	0人	0人
《その他意見》						

保護者アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： 社会福祉法人わおわお福祉会 わおわお仲町台保育園	横浜市都筑区仲町台 5-6-11
回答世帯数：97 世帯中 68 世帯 <0 歳児(4 世帯)、1 歳児(14 世帯)、2 歳児(13 世帯)、3 歳児(16 世帯)、4 歳児(8 世帯)、5 歳児(13 世帯)>	
定 員： 100 名	調査期間： 2017/11/16 ~ 2018/02/20



事業者コメント

施設名 わおわお仲町台保育園

園長 板谷 里恵

<評価に取り組んだ感想>

第三者評価を受けるにあたり、園内で保育所の役割や自分たちの使命を確認し合うことができた。改めて自園、保育を振り返ることで、自園の強みや課題、改善点を確認し、さらに質を高めていく意識が高まった。

また、自園を振り返ることで、職員一人一人が自身の保育を見つめ直し、さらなる成長に向けて、士気を高める機会となった。

<評価後取り組んだこととして>

評価を通して、園全体の強みや課題は職員で共有し、改善できる面（特にセキュリティ）は工事を行い、対応した。

保育内容等はこれから時間をかけてじっくりと改善していこうと思う。

保護者の皆さまからいただいたご意見を1つ1つ受け止め、今後も子どもたちのために、園と保護者の皆さまで子どもたちを育てて行けるよう、さらに向上して参りたいと思います。